

高校生の進学意識に関するアンケート調査について（報告）

平成 29 年 9 月

経済産業部農業局農業ビジネス課

1 調査方法と分析方法

本アンケート調査は、農林大学校への進学者数が多い県内の16高校の3年生を対象とし、高校生の進学意向や求める教育内容、農林大学校への進学意向などを把握し、専門職大学の学部・学科、教育内容の検討を行う基礎資料とすることを目的としている。

アンケートの調査内容は表1-1の通りである。調査項目は、回答者の属性、希望する進路先や進路地域、進学先選択時の重視事項と学びたい教育内容、将来の職業意識、農林大学校への進学希望と学びたい教育内容、専門職大学の認知度の6項目である。

調査票は調査対象高校へ郵送にて送付し、高校生への調査票の配布・回収を依頼した。

回収状況は、表1-2の通りである。回収数は1,366部で、このうち1,356部を有効回答数とした。

表1-1 アンケート調査の内容

調査名称	高校生の進学意識に関するアンケート調査
調査項目	回答者の属性 在学している高校及び学科、居住地、性別、出身（農家、非農家等） 希望する進路先や進路地域 希望する進路先、希望する進路地域 進学先選択時の重視事項と学びたい教育内容 進学先を選ぶ際の重視点、学びたい学問分野、農業分野で学びたい内容 将来の職業意識 将来の職業希望、地元志向、職業としての農業のイメージ 農林大学校への進学希望と学びたい教育内容 農林大学校への進学希望とその課程、農林大学校で学びたい内容 専門職大学の認知度
調査方法	郵送調査 ・調査対象高校に調査用紙の配布・回収を依頼
調査対象	農林大学校への進学者が多い県内16高校の3年生 1,575名

表1-2 回答状況

配布部数	1,575部
回収数	1,366部（回答率86.7%）
有効回答数	1,356部（有効回答率99.3%）

2 回答者属性

(1) 学科

回答者の学科の比率は、農業系学科が 56.3%(763 名)、普通科・理数科 19.9%(270 名)、総合学科 14.3%(194 名)、商業科 9.1%(123 名)となった(図 2-1)。

(2) 性別

回答者の性別比は、男性が 46.4%(629 名)、女性が 53.0%(719 名)であり女性がやや多い結果となった(図 2-2)。また、学科別に見ると、農業系学科及び総合学科は女性比率が高いが、普通科・理数科及び商業科等は男性比率が高くなった(図 2-3)。

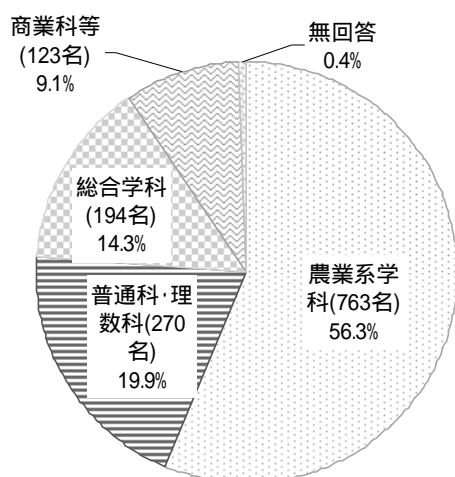


図2-1 回答者の学科 (n=1356)

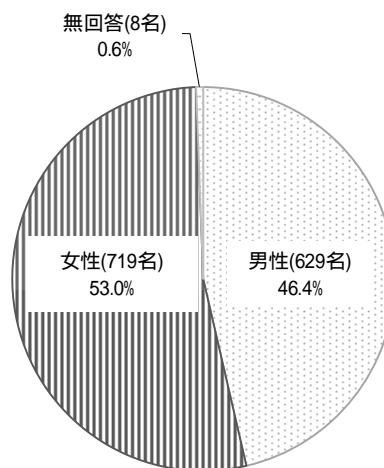


図2-2 回答者の性別 (n=1356)

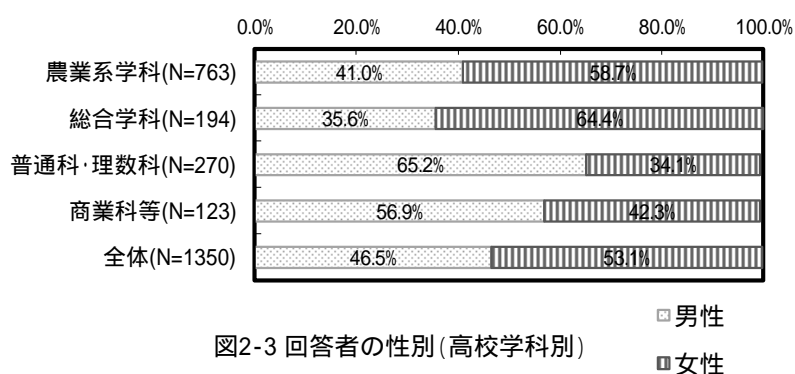


図2-3 回答者の性別 (高校学科別)

(3) 出身

回答者の出身は、「農家出身」が 3.5%(47 名)、「祖父母が農家」が 9.9%(134 名)、「非農家出身」が 84.5%(1,146 名)であり、非農家出身者が 8 割以上を占めている(図 2-4)。また、高校学科別に見ると、「農家出身」の比率は、農業系学科が 3.9%(29 名)、総合学科が 5.8%(11 名)、普通科・理数科が 2.3%(6 名)、商業科等が 0.8%(1 名)となり、農業系学科及び総合学科が他学科よりやや比率が高くなった。また、「祖父母が農家」の比率は、農業系学科が 9.3%(70 名)、総合学科が 13.2%(25 名)、普通科・理数科が 10.6%(28 名)、商業科等が 8.4%(10 名)。「非農家出身」の比率は、農業系学科が 86.8%(653 名)、総合学科が 81.1%(154 名)、普通科・理数科が 87.1%(229 名)、商業科等が 90.8%(108 名)となった(図 2-5)。

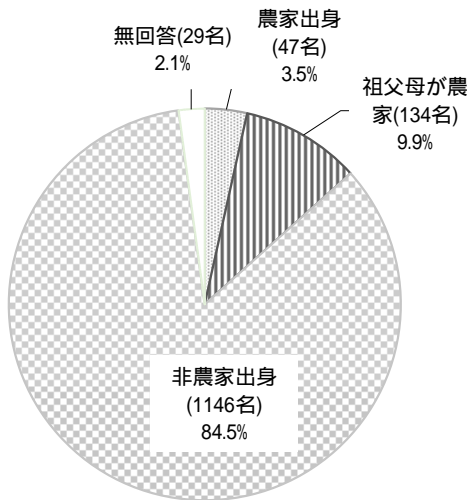


図2-4 回答者の出身(n=1356)

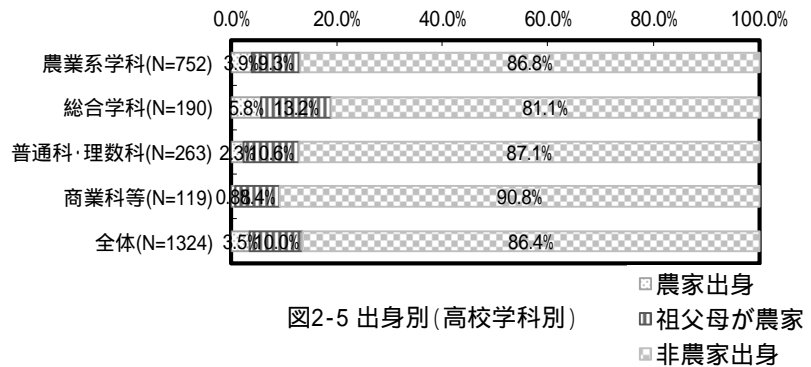


図2-5 出身別(高校学科別)

(4) 居住地

回答者の居住地は、静岡市が 32.9% (446名)と最も多く、浜松市 15.3% (208名)、磐田市 (141名)、袋井市 (56名)、掛川市 3.8% (51名)、藤枝市 3.1% (42名)、伊豆の国市 2.9% (40名)、三島市 2.7% (36名)、沼津市 2.6% (35名)、焼津市 2.6% (35名)、富士宮市 2.0% (27名)、富士市 1.7% (23名)、函南町 1.5% (21名)が続いた(図2-6)。

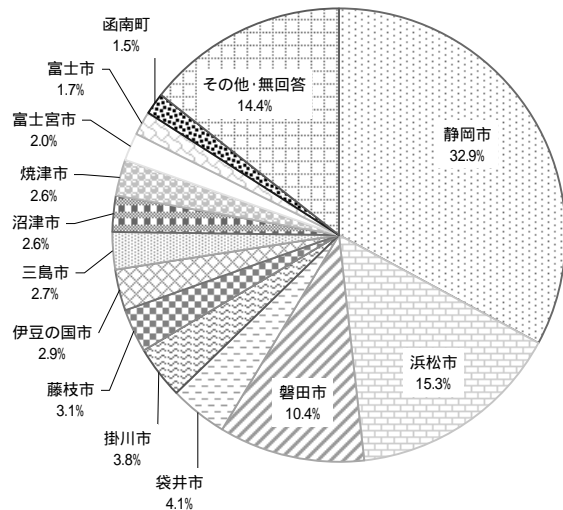


図2-6 回答者の居住地(n=1356)

3 希望する進路先及び進路地域

(1) 希望する進路先

希望する進路先は、「専門学校・専修学校」、「就職」、「4年制大学」、「短期大学」の順に多くなっている(図3-1)。

また、高校学科別にみると、農業系学科及び総合学科では「就職」が、普通科・理数科及び商業科等は「4年制大学」の希望が他の学科と比べて比率が高くなる傾向が見られた(図3-2~3-5)。

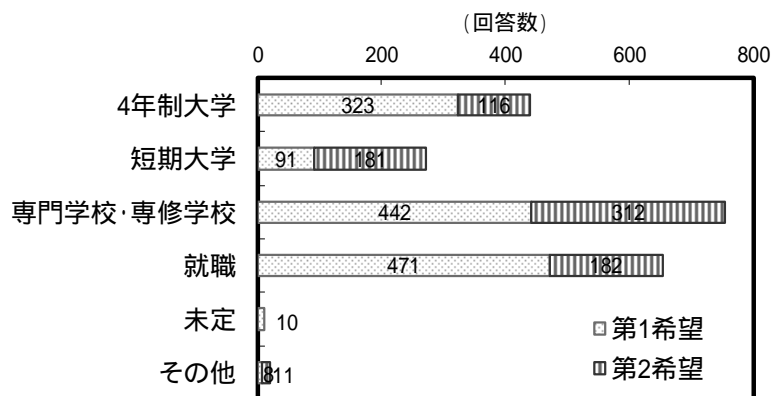


図3-1 希望する進路先(順位をつけて2つ選択、n=1345)

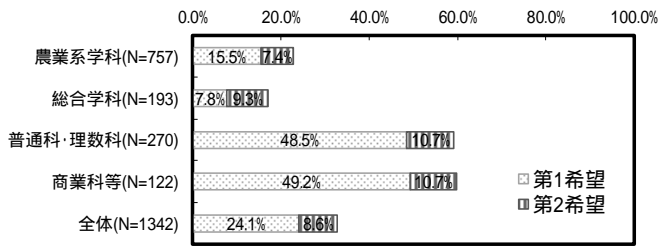


図3-2 4年制大学進学希望(高校学科別)

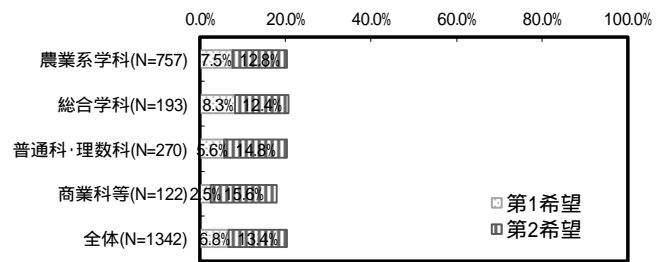


図3-3 短期大学進学希望(高校学科別)

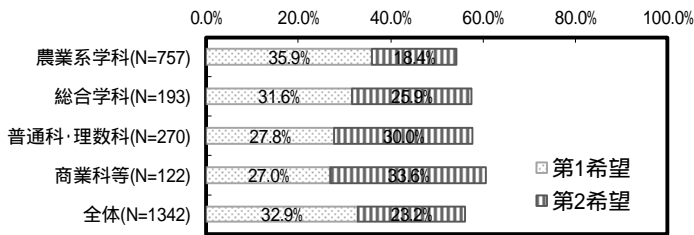


図3-4 専門学校・専修学校進学希望(高校学科別)

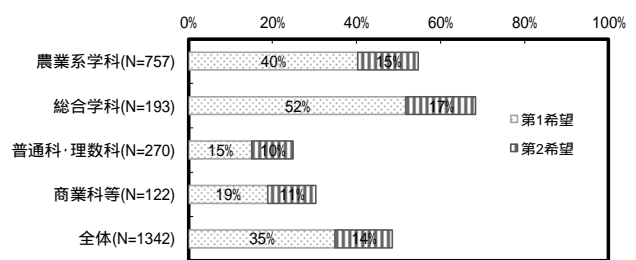


図3-5 就職希望(高校学科別)

(2) 希望する進路地域

希望する進路地域は、「静岡県内」が特に多く、「東海(静岡県除く)」、「南関東(首都圏含む)」、「近畿」、「北関東・甲信」が続いた(図3-6)。

また、高校学科別では、「静岡県内」の比率は農業系学科及び総合学科が(図3-7)、「東海(静岡県除く)」は普通科・理数科が(図3-8)、「南関東」の比率は商業科等が(図3-9)他と比べてやや高い傾向にあった。

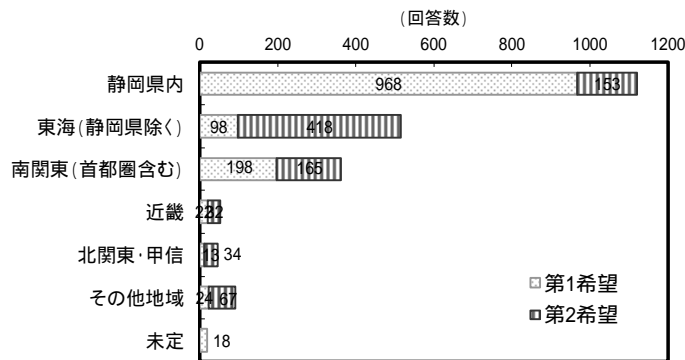


図3-6 希望する進路地域(順位をつけて2つ選択、n=1341)

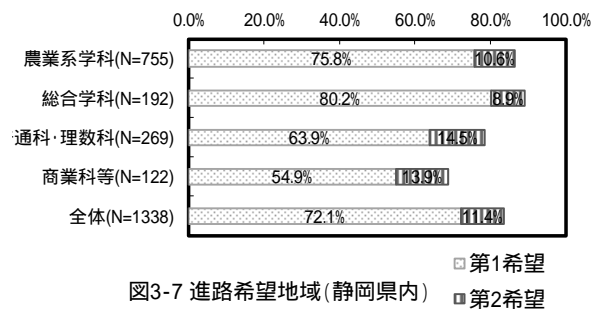


図3-7 進路希望地域(静岡県内)

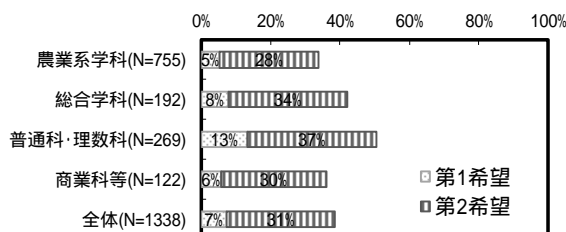


図3-8 進路希望地域(東海(静岡県除く))(高校学科別)

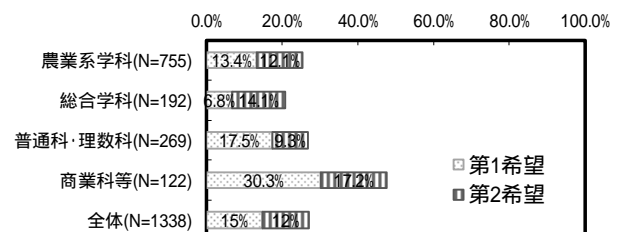


図3-9 進路希望地域(南関東)(高校学科別)

4 進学先選択時の重視事項と学びたい教育内容

(1) 進学先を選ぶ際に重視する点

進学先を選ぶ際に重視する点は、「学びたい学部・学科・コースがある」が特に多くなった。次に、「専門分野を深く学べる」、「自分の興味や可能性を広げられる」、「資格取得に有利である」が続いた(図4-1)。

高校学科別に見ると、「学びたい学部・学科・コースがある」の比率は、商業科等が他学科と比べてやや低く(図4-2)、「専門分野を深く学べる」の比率は総合学科がやや高い比率となった(図4-3)。さらに、「自分の興味や可能性を広げられる」及び「資格取得に有利である」は、高校学科毎の違いは見られなかった(図4-4、図4-5)。

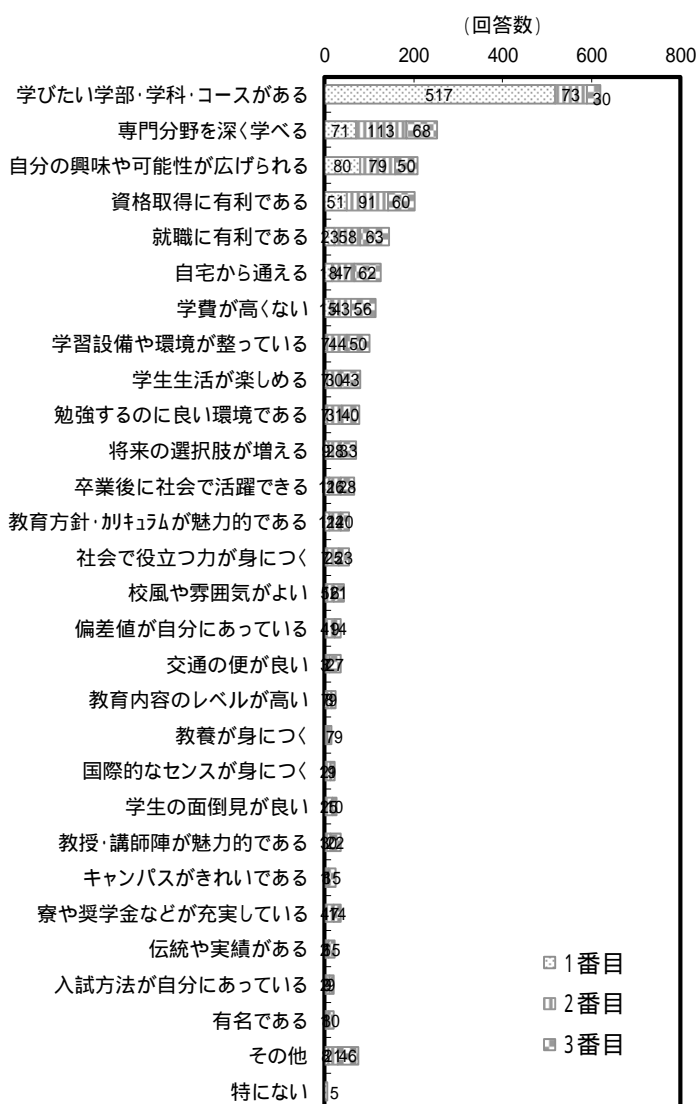


図4-1 進学先選択時の重視点(1~3位選択、n=883)



図4-2 進学先選択時の重視点(高校学科別)「学びたい学部・学科・コースがある」

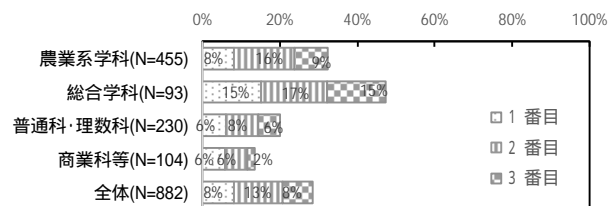


図4-3 進学先選択時の重視点(高校学科別)「専門分野を深く学べる」



図4-4 進学先選択時の重視点(高校学科別)「自分の興味や可能性を広げられる」

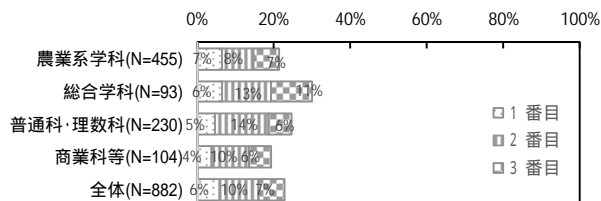


図4-5 進学先選択時の重視点(高校学科別)「資格取得に有利である」

(2) 学びたい学問分野

学びたい学問分野は、「調理・食品・栄養関係」、「農学関係」が特に多くなった(図4-6)。高校学科別にみると、「調理・食品・栄養関係」及び「農学関係」は、農業系学科及び総合学科が他学科に比べて比率が高くなった(図4-7、図4-8)。

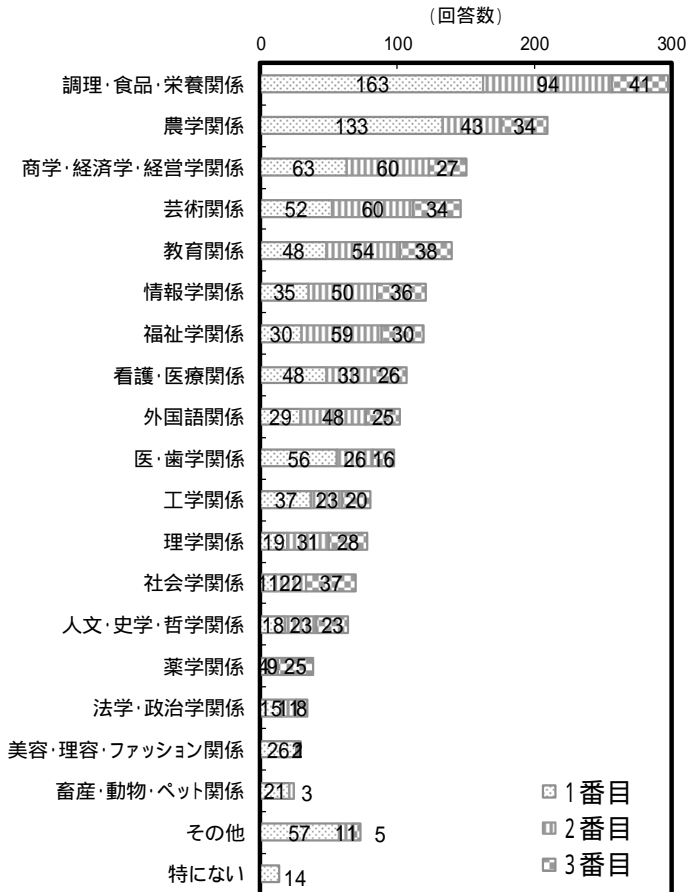


図4-6 学びたい学問分野(1~3位選択、n=879)

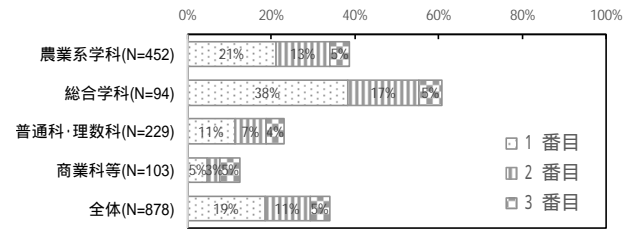


図4-7 学びたい学問分野「食品・栄養・調理関係」(高校学科別)

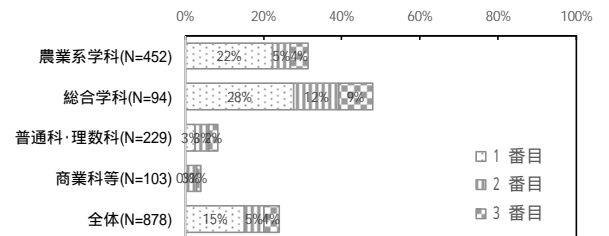


図4-8 学びたい学問分野「農学関係」(高校学科別)

(3) 農業分野で学びたい内容

農業分野で学びたい内容は、「日本食・食文化」、「食品加工技術」、「植物栽培の基礎技術」、「植物栽培の基礎知識」、「食品流通・販売・輸出」、「食品安全」の順に多くなった(図4-9)。

また、次の式でスコアを算出したところ、「食品加工技術」、「日本食・食文化」、「植物栽培の基礎知識」、「植物栽培の基礎技術」、「食品流通・販売・輸出」、「食品安全」の順にスコアが高くなった。

<スコア計算式>

$$\text{スコア} = (1 \text{ 番目の回答数} \times 3) + (2 \text{ 番目の回答数} \times 2) + (3 \text{ 番目の回答数} \times 1)$$

さらに、高校学科別にみると、「日本食・食文化」、「食品加工技術」、「食品流通・販売・輸出」は、総合学科が他の学科に比べて比率がやや高い傾向にあった(図4-10~4-15)。

表 4-1 農学分野で学びたい内容のスコア

学問分野	スコア
食品加工技術	431
日本食・食文化(地域の伝統食、和食など)	380
植物栽培の基礎知識	354
植物栽培の基礎技術	345
食品流通・販売・輸出	268
食品安全(GAP、HACCP、食品表示など)	241
家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術	169
家畜・家禽の基礎知識	151
環境問題(温暖化、砂漠化、ごみ問題)	122
食料問題(自給率、食料危機)	105
農林業経営	84
スマート農業(ICT、IoT、自動化技術)	81
プロ農林家の技術	65
木材加工技術	60
農と福祉の連携(障害者・高齢者雇用など)	42
環境に配慮した農業(エコファーマー、有機農業)	30
農林業の成功事例	29
農山村振興(グリーン・ツーリズム、鳥獣害など)	19

スコア = (1 番目の回答数 × 3) + (2 番目の回答数 × 2) + (3 番目の回答数 × 1)

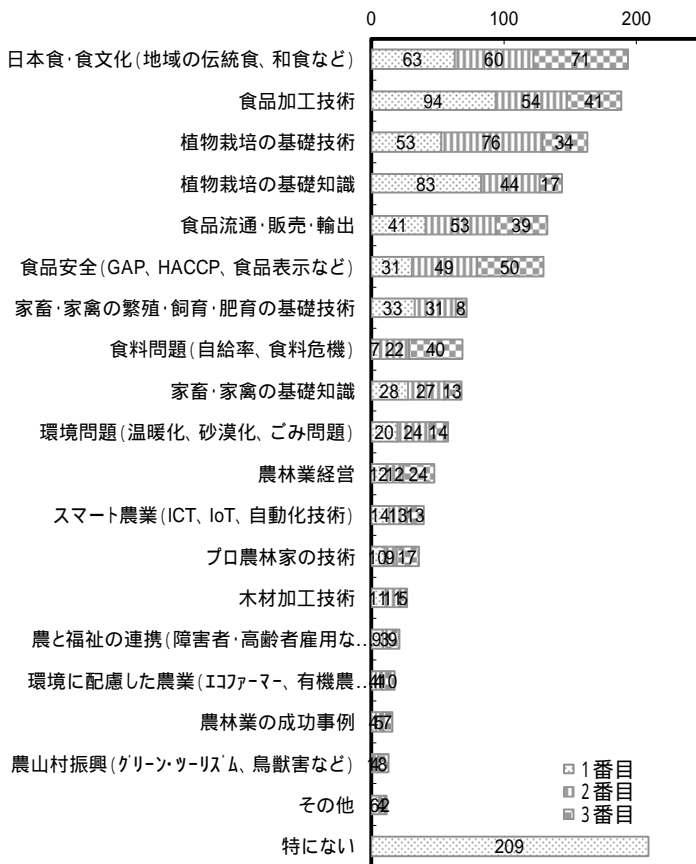


図4-9 農学分野で学びたい内容(1～3位選択、n=733)

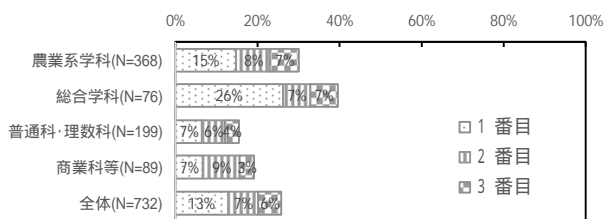


図4-10 学びたい農学分野(高校学科別)
「食品加工技術」

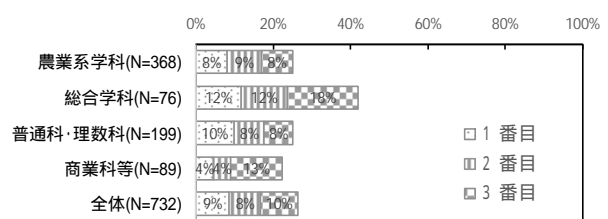


図4-11 学びたい農学分野(高校学科別)
「日本食・食文化」

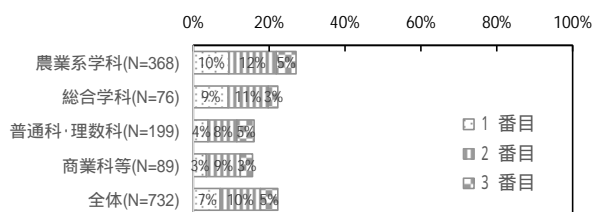


図4-12 学びたい農学分野(高校学科別)
「植物栽培の基礎技術」

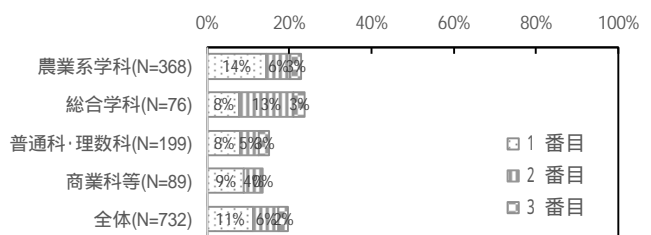


図4-13 学びたい農学分野(高校学科別)
「植物栽培の基礎知識」

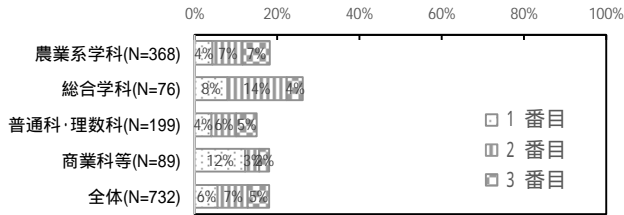


図4-14 学びたい農学分野(高校学科別)
「食品流通・販売・輸出」

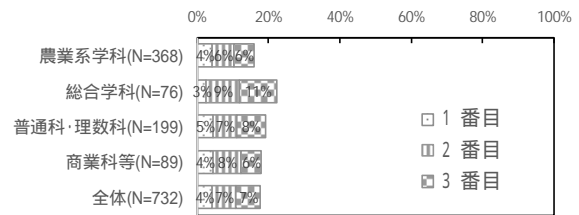


図4-15 学びたい農学分野(高校学科別)
「食品安全」

5 将来の職業意識

(1) 将来の希望職業

将来の希望職業についてみると、「自分で農林業を行う」は2.0%(22名)、「農林業を行っている法人や会社などに就職する」は3.3%(36名)、「農林業関係団体(農協、森林組合など)に就職する」は2.4%(26名)、「農林業関係企業(種苗、資材、木材加工会社など)に就職する」は1.0%(11名)、「農林技術系の公務員になる」は2.0%(22名)、「農林業と関係のない企業などに就職する」は44.9%(484名)、「まだわからない」は28.4%(306名)、「その他」は15.9%(172名)となった(図5-1)。

また、高校学科別に見ると、農業系学科及び総合学科は「農林業を行っている法人や会社などに就職する」の比率が他学科よりも高い傾向にあった。

全体として、農業関係の職業を希望する回答者は少ない傾向にあった。

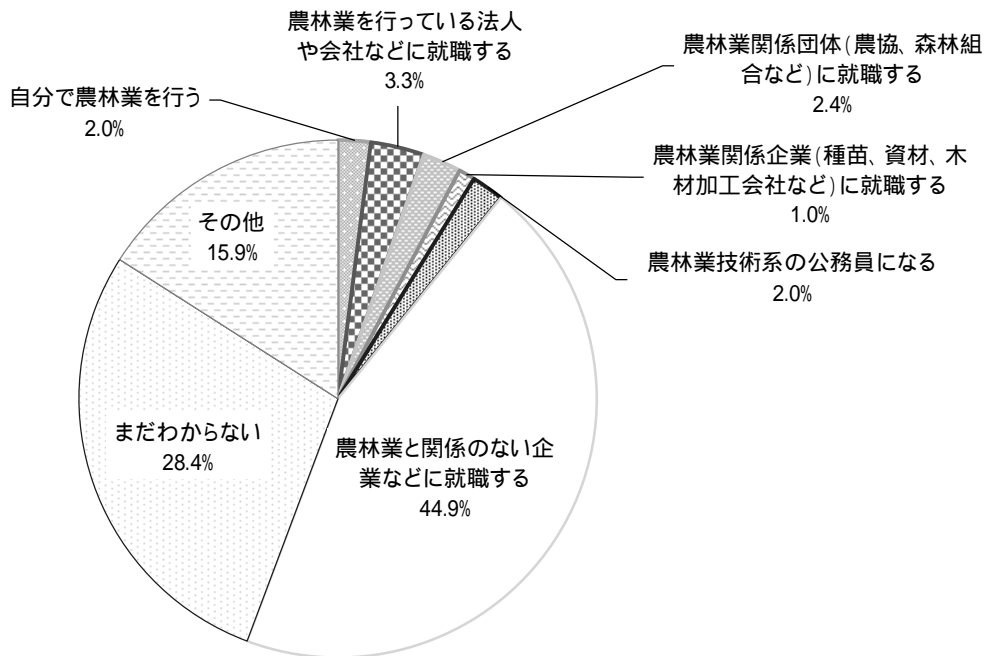


図5-1 将来の希望職業(n=1079)

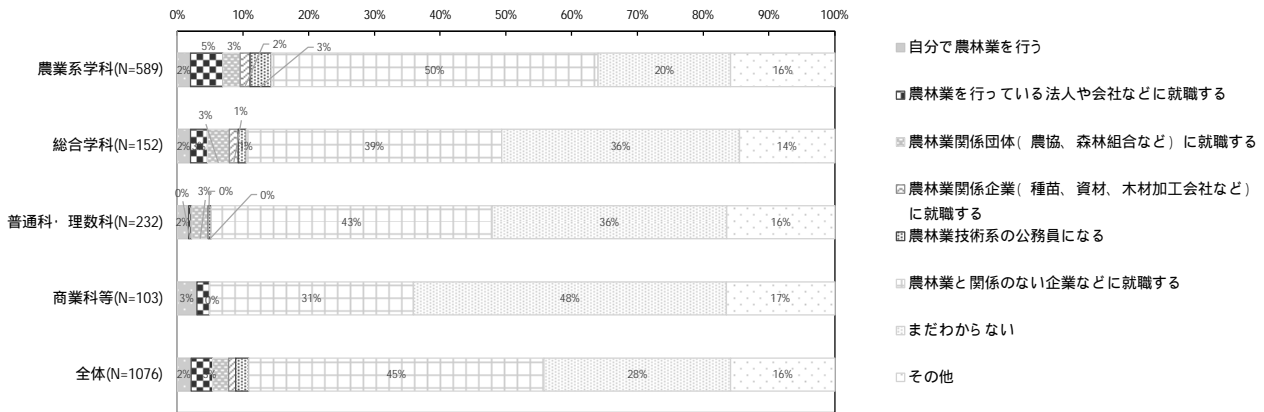


図5-2 将来就きたい職業 (高校学科別)

(2) 将来の地元志向

将来の地元志向をみると、「ぜひ地元で働きたい」が23.1% (259名)、「できれば地元で働きたい」が28.5% (318名)であり、両者を合わせると51.6%が地元での就業を希望していた。続けて、「どちらでもよい」が34.4% (386名)、「出来れば地元を離れて働きたい」が9.6% (108名)、「絶対に地元を離れて働きたい」が4.4% (49名)であった(図5-3)。

また、高校学科別にみると、比率に大きな違いは見られなかった(図5-4)。

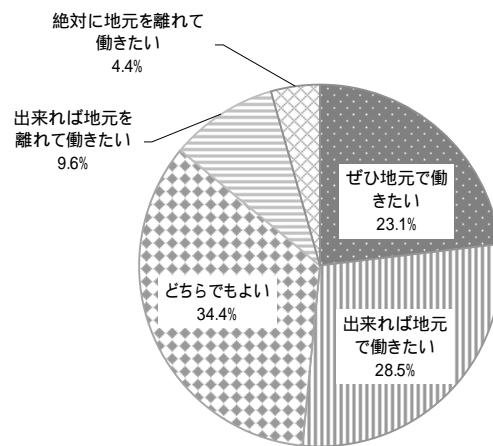


図5-3 将来の地元志向(n=1121)

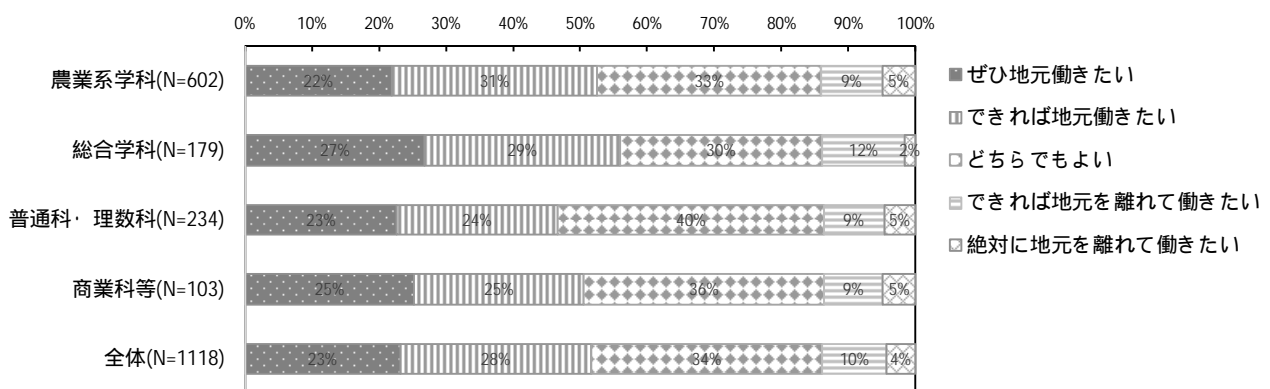


図5-4 将来の地元志向 (高校学科別)

(3) 職業としての農業のイメージ

職業としての農業のイメージは、「大変(厳しい、辛い、きつい、ハード含む)」が特に多くなった(図5-5)。また、高校学科別でも大きな違いは見られなかった(図5-6)。

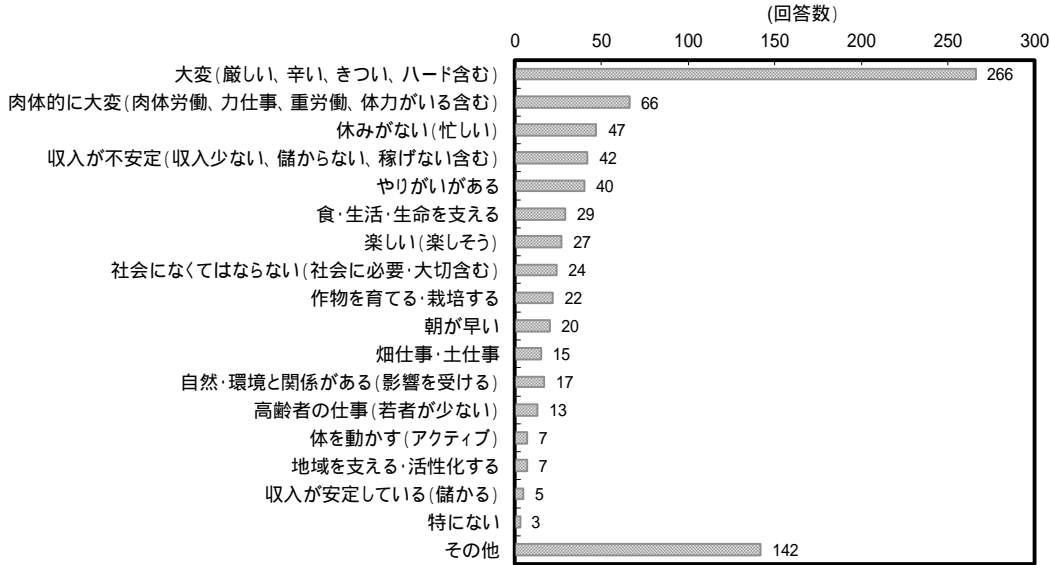


図5-5 職業としての農業のイメージ(複数回答, n=717)

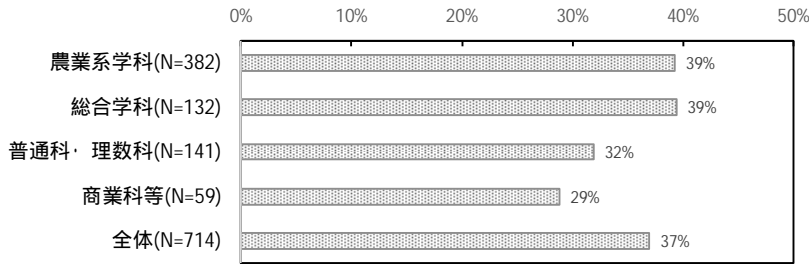


図5-6 農業に対するイメージ(高校学科別)

「大変(厳しい, つらい, きつい, ハード含む)」

6 農林大学校への進学希望と学びたい教育内容

(1) 農林大学校への進学希望

農林大学校への進学希望をみると、「第一希望の進学先」が7.2%(64名)、「希望進路先の一つ」が3.2%(29名)であり、両者を合わせた10.5%が農林大学校への進学を希望していた。一方、「希望進路先ではない」は83.9%(749名)、「わからない」は5.7%(51名)であり、8割以上が農林大学校への進学を希望していなかった(図6-1)。

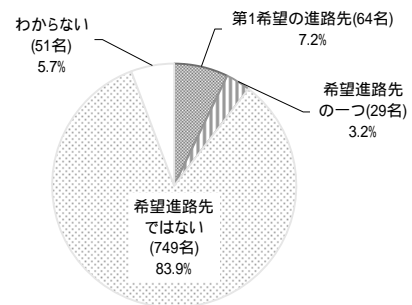


図6-1 農林大学校への進学希望(n=893)

さらに、高校学科別にみると、農業系学科及び総合学科で「第一希望の進学先」及び「希望進路先の一つ」が他学科よりもやや高い傾向にあった(図6-2)。



図6-2 農林大学校への進学希望(高校学科別)

(2) 農林大学校を進学先として検討した際に重視した点

農林大学校を進学先として検討した際に重視した点は、「農業分野で役立つ技術・技能が見につく」が圧倒的に多く、「学費が安い」、「設備や環境が整っている」、「就農（法人就農含む）に有利である」が続いた（図6-3）。

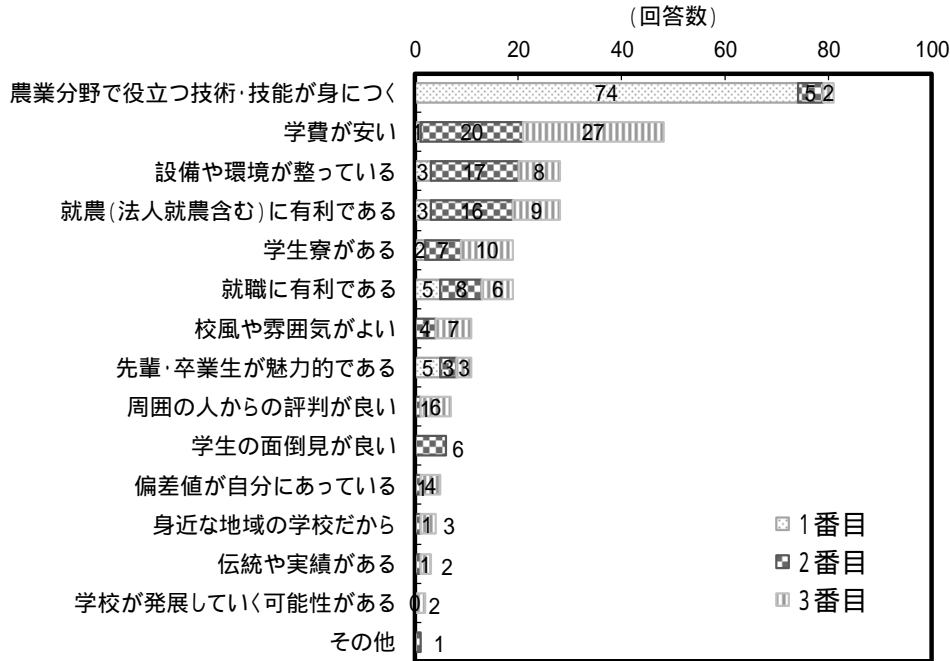


図6-3 農林大学校を進学先として選択した時の重視点(1～3位選択、n=93)

(3) 農林大学校で進学したい課程

農林大学校で学びたい課程は、「養成部のみ」が65%（54名）、「養成部と研究部」が14.5%（12名）、「まだ分からない」が20.5%（17名）であった（図6-4）。

「養成部のみ」を選択した理由をみると、「養成部を卒業すれば就職（就農）できるから」が53.7%（29名）で最も多く、「親に負担をかけたくない」が18.5%（10名）、「早く自立したい」が5.6%（3名）、「研究部で学びたいことがない」が3.7%（2名）、「勉強は2年で十分」が1.9%

（1名）、「特に理由はない」が14.8%（8名）、「その他」が1.9%（1名）となった（図6-5）。

次に、「養成部と研究部」を選択した理由を見ると、「さらに知識を深めたい」が66.7%（8名）、「希望するところへの就職のために必要だから」が16.7%（2名）、「そんなに早く社会へ出たくない」が8.3%（1名）、「特に理由はない」が8.3%（1名）となった。

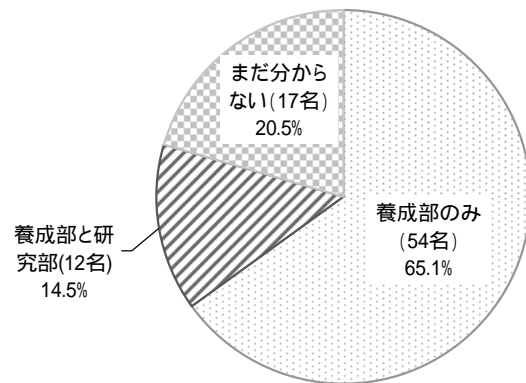


図6-4 農林大学校で進学したい課程(n=83)

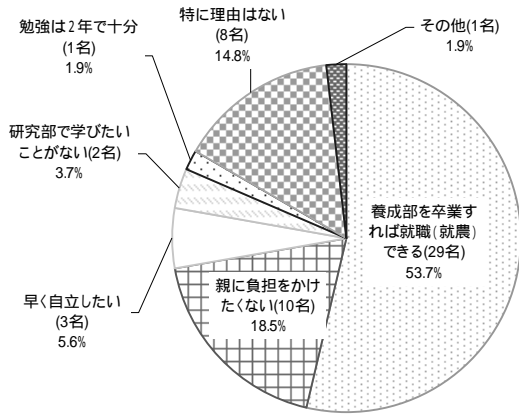


図6-5 養成部のみを選択した理由(n=54)

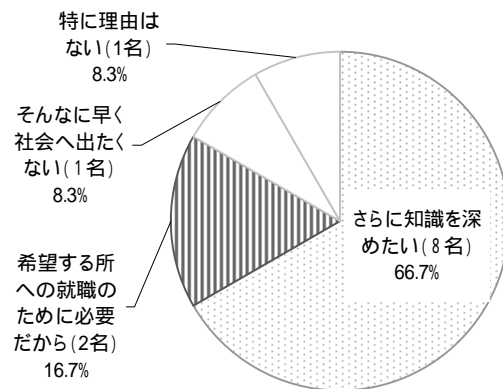


図6-6 養成部と研究部を選択した理由(n=14)

7 専門職大学制度の認知度

農林大学学校の認知度を見ると、「知っていた」が 65.5% (652 名)、「知らなかった」が 34.5% (344 名) であり、知っている割合の方が高かった。

次に、新たな大学制度である「専門職大学」が創設されたことへの認知度をみると、「知っていた」が 13.3% (141 名)、「知らなかった」が 86.7% (921 名)であった。

最後に、農林大学学校が専門職大学への移行を検討していることの認知度を見ると、「知っていた」が 10.8% (115 名)、「知らなかった」が 89.2% (952 名)と認知度は低かった。

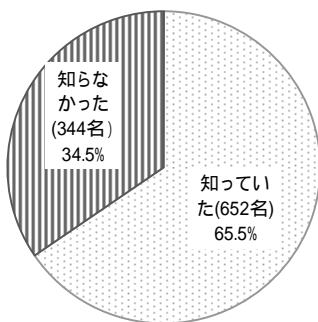


図7-1 農林大学学校の認知度 (n=996)

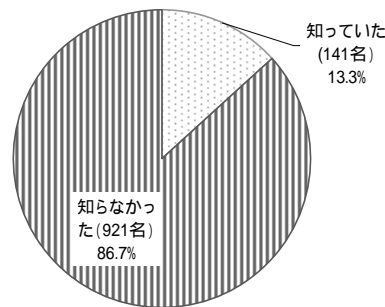


図7-2 専門職大学制度創設の認知度 (n=1062)

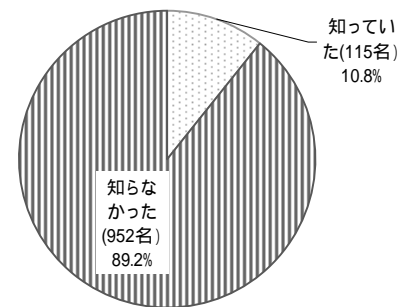


図7-3 農林大学学校が専門職大学への移行を検討していることの認知度(n=1067)

8 まとめ

- ・ 回答者の性別は女性比率がやや高く、特に農業系学科及び総合学科では女性が6割程度であった。また、高校学科を問わず、非農家出身者が8割以上を占めていた。
- ・ 希望進路先は「専門学校・専修学校」、「就職」、「4年制大学」の順に多く、農業系学科及び総合学科では「就職」が、普通科・理数科及び商業科等では「4年制大学」の進路希望が多かった。
- ・ 進学先を選ぶ際の重視点は、「学びたい学部・学科・コースがある」の回答数が特に多かった。また、学びたい学問分野は「調理・食品・栄養関係」、「農学関係」が多く、農業

系学科及び総合学科では、特に比率が高い傾向にあった。

- ・ 農業で学びたい分野は、「食品加工技術」、「日本食・食文化」、「植物栽培の基礎知識」、「植物栽培の基礎技術」、「食品流通・販売・輸出」、「食品安全」、「家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術」、「家畜・家禽の基礎知識」が多く、生産の基礎知識・技術に加え、食品に関係する知識・技術が多かった。
- ・ 農林大学校への進学希望は1割程度であり、このうち養成部だけの進学希望は7割近くであった。また、農林大学校を選択する際の重視点は、「農業分野で役立つ技術・技能が身につく」、「学費が安い」であった。
- ・ 将来の職業意識では、就農や農林業関係企業などへの就職希望は1割強に止まった。高校生が農業へ抱くイメージには、「大変」、「肉体的に大変」、「休みがない」などマイナスイメージがあり、このことが影響していることも考えられる。
- ・ 以上から、より多くの学生を集めるためには、学生の学びたい学問内容（食品加工、生産に必要な技術）を提供する必要がある。
- ・ 農林大学校を選択する際に学費の安さは重要な要素になっており、学費の変更は十分な検討が必要である。

高校生の進学意識に関するアンケート調査

- 回答の記入上のお願い -

- ・ 回答は、あてはまる選択肢の番号に を付けてください。また、別に回答欄があるものについては、番号または字句を記入してください。
- ・ なお、あらかじめ添付のリーフレットを見てから回答してください。

調査実施機関 静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課担い手育成班

(問合せ先) 担当：竹内、菊池、工藤 TEL . 054-221-2754 FAX . 054-221-3688

ご自身のことについて伺います。(該当する項目に、() 内に記入)

学校名	() 高等学校				
学年	1 . 1年生	2 . 2年生	3 . 3年生		
課程	1 . 全日制	2 . 定時制	3 . 通信制		
学科	1 . 普通科(文系、理系) 2 . 理数科 3 . 商業科 4 . ICT科 5 . 農業系学科 (生産系、園芸系、食品系、環境系、森林系、動物系、ライフ系、 その他()) 6 . 総合学科 (農業科学系列、園芸科学系列、花と緑系列、生物生命系列、 食品園芸系列、食品科学系列、その他()) 7 . 国際科 8 . その他()				
性別	1 . 男性	2 . 女性			
出身	1 . 農家	2 . 非農家	3 . 祖父母農家		
居住地	1 . 下田市 2 . 東伊豆町 3 . 河津町 4 . 南伊豆町 5 . 松崎町 6 . 西伊豆町 7 . 沼津市 8 . 熱海市 9 . 三島市 10 . 富士宮市 11 . 伊東市 12 . 富士市 13 . 御殿場市 14 . 裾野市 15 . 伊豆市 16 . 伊豆の国市 17 . 函南町 18 . 清水町 19 . 長泉町 20 . 小山町 21 . 静岡市 22 . 島田市 23 . 焼津市 24 . 藤枝市 25 . 牧之原市 26 . 吉田町 27 . 川根本町 28 . 菊川市 29 . 御前崎市 30 . 掛川市 31 . 森町 32 . 袋井市 33 . 磐田市 34 . 浜松市 35 . 湖西市 36 . 県外()				

高校卒業後の進路や学びたい学問分野について、お伺いします。

問1 希望する進路先について、順位をつけて2つまで選び回答欄へ番号を記入してください。

1 . 四年制大学	2 . 短期大学	3 . 専門学校・専修学校
4 . 就職	5 . 未定	6 . その他()
<回答欄>	第1希望	第2希望

問2 希望する進路地域について、順位をつけて2つまで選び回答欄へ番号を記入してください。

1 . 静岡県内	2 . 北海道	3 . 東北	4 . 南関東(首都圏)
5 . 北関東・甲信	6 . 北陸	7 . 東海(静岡県除く)	8 . 近畿
9 . 中国	10 . 四国	11 . 九州	12 . 未定
13 . 海外	14 . その他()		
<回答欄>	第1希望	第2希望	

進学希望がある方 問3へ

それ以外の方 問6へ

<進学希望者に伺います>

問3 進学先を選ぶ際、重視する点について、順番をつけて3つまで選び回答欄へ番号を記入してください。

1. 学びたい学部・学科・コースがある	20. 勉強するのに良い環境である		
2. 自分の興味や可能性が広げられる	21. 交通の便が良い		
3. 資格取得に有利である	22. 遊びに行くのに便利な立地である		
4. 専門分野を深く学べる	23. 偏差値が自分にあっている		
5. 教育方針・カリキュラムが魅力的である	24. 学費が高くない		
6. 社会で役立つ力が身につく	25. 入試方法が自分にあっている		
7. 教育内容のレベルが高い	26. 就職に有利である		
8. 教養が身につく	27. 将来の選択肢が増える		
9. 国際的なセンスが身につく	28. 卒業後に社会で活躍できる		
10. 学生の学力が高い	29. 校風や雰囲気が良い		
11. 学生の面倒見が良い	30. 伝統や実績がある		
12. 教授・講師陣が魅力的である	31. 有名である		
13. 先輩・卒業生が魅力的である	32. 活気がある感じがする		
14. 学習設備や環境が整っている	33. 周囲の人からの評判が良い		
15. 学生生活が楽しめる	34. 学校が発展していく可能性がある		
16. キャンパスがきれいである	35. 規模が大きい		
17. クラブ・サークル活動が盛んである	36. 望む学位がとれる		
18. 寮や奨学金などが充実している	37. 特にない		
19. 自宅から通える	38. その他()		
<回答欄>	1 番目	2 番目	3 番目

問4 学びたい学問分野について、順番をつけて3つまで選び、番号を回答欄へ記入してください。

1. 農学関係	10. 情報学関係		
2. 調理・食品関係	11. 教育関係		
3. 人文・史学・哲学関係	12. 芸術関係		
4. 外国語関係	13. 医・歯学関係		
5. 法学・政治学関係	14. 薬学関係		
6. 商学・経済学・経営学関係	15. 看護関係		
7. 社会学関係	16. 福祉学関係		
8. 理学関係	17. 特にない		
9. 工学関係	18. その他()		
<回答欄>	1 番目	2 番目	3 番目

問5 農業分野で学びたい項目があれば、順番をつけて3つまで選び、番号を回答欄へ記入してください。

1. 植物栽培の基礎知識	11. 食品安全 (GAP、HACCP、食品表示など)		
2. 植物栽培の基礎技術	12. 日本食・食文化 (地域の伝統食、和食など)		
3. 家畜・家禽の基礎知識	13. 農山村振興 (グリーン・ツーリズム、鳥獣害など)		
4. 家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術	14. 農と福祉の連携 (障害者・高齢者雇用など)		
5. プロ農林家の技術	15. 環境に配慮した農業 (エコファーム、有機農業)		
6. スマート農業 (ICT、IoT、自動化技術)	16. 環境問題 (温暖化、砂漠化、ごみ問題)		
7. 農林業経営	17. 食料問題 (自給率、食料危機)		
8. 食品加工技術	18. 農林業の成功事例		
9. 木材加工技術	19. 特になし		
10. 食品流通・販売・輸出	20. その他 ()		
<回答欄>	1 番目	2 番目	3 番目

職業意識について、伺います。

問6 将来、どのような職業に就きたいですか。(1つ)

1. 自分で農林業を行う	2. 農林業を行っている法人や会社などに就職する
3. 農林業関係団体 (農協、森林組合など) に就職する	4. 農林業関係企業 (種苗、資材、木材加工会社など) に就職する
5. 農林業技術系の公務員になる	6. 農林業と関係のない企業などに就職する
7. まだわからない	8. その他 ()

問7 将来、地元で働きたいですか。(1つに)

1. ぜひ地元で働きたい	2. 出来れば地元で働きたい	3. どちらでもよい
4. 出来れば地元を離れて働きたい	5. 絶対に地元を離れて働きたい	

問8 あなたは、職業としての農業にどのようなイメージを持っていますか。(自由記入)

(記入例：クリエイティブな仕事 など)

静岡県立農林大学校への進学希望について、お伺いします。

問9 農林大学校は、希望進路先ですか?(1つに)

1. 第1希望の進路先	問10へ	2. 希望進路先の一つ	問10へ
3. 希望進路先ではない	問14へ	4. わからない	問14へ

<農林大学校が進学先の方に伺います>

問10 農林大学校を進学先として検討した際、重視した点について順番をつけて3つまで選び回答欄へ番号を記入してください。

1. 農業分野で役立つ技術・技能が身につく	9. 偏差値が自分にあっている		
2. 学生の面倒見が良い	10. 校風や雰囲気がよい		
3. 先輩・卒業生が魅力的である	11. 伝統や実績がある		
4. 就農 (法人就農含む) に有利である	12. 学校が発展していく可能性がある		
5. 就職に有利である	13. 周囲の人からの評判が良い		
6. 設備や環境が整っている	14. 身近な地域の学校だから		
7. 学生寮がある	15. その他 ()		
8. 学費が安い			
<回答欄>	1 番目	2 番目	3 番目

問 11 農林大学校で進学したい課程について、お答えください。(1つに)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 養成部のみ(2年間の課程) | <u>問 12 へ</u> |
| 2. 養成部と研究部(合計4年間の課程) | <u>問 13 へ</u> |
| 3. まだ分からない | <u>問 14 へ</u> |

<養成部のみに進学と答えた方にお聞きします>

問 12 「養成部のみ」を選択した理由について、お答えください。(1つに)

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 養成部を卒業すれば就職(就農)できる | 2. 勉強は2年で十分 |
| 3. 研究部で学びたいことがない | 4. 親に負担をかけたくない |
| 5. 早く自立したい | 6. 特に理由はない |
| 7. その他() | |

問 14 へ

<養成部と研究部と答えた方にお聞きします>

問 13 「養成部と研究部」を選択した理由について、お答えください。(1つに)

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 希望する所への就職のために必要だから | 2. さらに知識を深めたい |
| 3. そんなに早く社会へ出たくない | 4. 特に理由はない |
| 5. その他() | |

問 14 へ

問 14 あなたは、農林大学校を知っていましたか。(1つに)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

専門職大学の制度について、伺います。

問 15 あなたは、新たな教育制度「専門職大学(専門職短期大学)」が創設されたことを知っていましたか。(1つに)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問 16 静岡県では、農林大学校を専門職大学へ移行することを検討しています。このことを知っていましたか。(1つに)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

~ご協力をありがとうございました~

専門職大学（農林業）基本構想の概要

主な大学設置の意義

- 1 将来の農林業現場を支える人材の養成
個々の農林業経営体の規模が拡大し、応用可能な技術革新が進展してきたことから、基礎的な生産能力に加えて、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、健康を志向した品質の向上やコストの低減など生産性を高める先端技術への対応能力を持ち、経営改革を主導できる人材が求められている
- 2 農山村の景観・環境・文化を支える人材の養成
農山村地域では、近年高齢化や人口減少に伴い活力が低下しており、農林業者が経営を行う上で、自然と共生しながら農山村の景観や環境を保全していくとともに、地域の文化や伝統を守り育み、地域社会を支えていくことが求められている
- 3 国内外からの人材の受け入れ
年齢国籍、性別を問わず、農林業を志す人材に、質の高い実践的教育を提供することで、本県農林業の発展とともに、国際社会に貢献する人材を数多く養成することができる

基本的な理念

- 農林業経営に革新を起こす人材の養成
 - ① 生産の基礎から応用までの知識・技術を持ち、生産のスピリットとして、生産現場の中心となる人材の養成
 - ② 基礎的な生産能力に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、先端技術への対応能力を有した人材の養成
- 地域社会における将来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化や伝統を守り育むことのできる農林業者の養成
- 世界に開かれた大学として、農林業の人材養成を通じて産業の発展や社会の活性化に寄与する教育研究拠点の形成

◇ 農林大学校では「耕土耕心」の校訓の下、本県農林業発展に貢献する、現場で活躍する人材を数多く輩出してきたことから、引き続きこの理念を尊重した上で、年齢国籍を問わず、将来の経営環境の変化に対応し、農林業者として先端技術などを活用して経営革新を推し進め、さらには農山村の美しい景観や環境、文化の継承者として、地域社会を中心となって支えていく人材を養成する

大学の概要

名称：静岡県立 農林環境専門職大学（仮称）

4 年制 生産環境経営学部 生産環境経営学科（仮称）
（収容定員 100 名程度、1 学年 24 名程度）

教育目標（養成人材）

- 先端技術への対応力と高度な経営管理能力を養い、「農林業経営体の経営を継ぐ」「農林業経営体の中核を担う」、「自ら新しい経営体を立ち上げる」など、それぞれの立場で自らの夢を実現し、農林業分野で活躍できる人材を養成する
- 農林業の実践的な技術や知識と、生産物の価値を高める創造力を養い、農林業経営の現場で生まれる新しい課題に柔軟に対応できる人材を養成する
- 農山村の景観形成の礎となる農業農村工学の実践的知識を養い、景観・環境や地域の文化を守り、自然と共生していくことのできる人材を養成する
- 幅広い教養とコミュニケーション能力を養い、経営体や地域のリーダーとなりうる、豊かな人間性を備えた人材を養成する

学部・学科の特色

- 農林業経営体等での体験・実践を重視した教育の実施
- AOI-PARC や静岡県新産業クラスター等との連携による、先端技術の知識習得
- 生産知識や技術を基礎とし、加工・流通・販売などの6次産業化、食の安心安全、農林産物の機能性など、消費者動向を踏まえたフードシステムの視点での教育を実施
- 農業農村工学の実践的知識の習得を通じた景観や環境などの農山村の持つ多面的機能の理解や、農山村地域の文化や歴史についての理解を促すことで、広い視野で農林業を捉えることができる資質・能力を涵養
- コミュニケーション力や、外国語能力の涵養
- 他大学等卒業者、新たに農林業を志す社会人を受け入れるため、編入学制度を整備

基礎科目

- 豊かな人間性や幅広い教養、専門科目の履修に必要な知識を習得させ、職業観を形成するため、一般教養科目（コミュニケーション論、食文化や農山村文化、歴史、景観、環境保全等）、自然科学基礎科目（化学、生物等）、社会科学基礎科目（政治、経済等）、農業農村工学に関する科目、農山村の多面的機能（癒しや生物多様性など）について学ぶ

職業専門科目

- 農林産物の生産に加え、加工・流通・販売やマーケティング手法を含めた、高度な専門知識を教育研究するために、豊富な実習を取り入れ、生産技術と経営管理を学ぶ
- 生産技術…生産知識・技術の習得、国際基準の生産工程管理手法の習得
- 経営管理…加工・流通・販売において生産物を高付加価値化できる手法や知識を習得

総合科目

- 外部専門家による実践的講義、フードシステムの視点での生産から販売までの現場経験や、農山村で自然と共生し経営を実践する農林業者の下での経営研修など経験重視した課題発見・解決型のプロジェクト実習を充実し、習得した知識・技術を現場で活用する実践力や判断力を養う。

教育課程

農林業界および地域社会のニーズを反映した教育課程を編成・実施するため、県内農林業者や農林業団体、高校関係者、地元市町、県などを構成員とした教育課程連絡協議会を設け、その意見を踏まえた教育課程の編成・実施・評価を行う。

教員組織

- 原則主要科目等は専任教員（教授・准教授等）が担当
- 実務家教員として農林業経営者や行政機関専門家活用
- 国内外で活躍する識者を非常勤講師として招聘 等

入学者選抜

- 一般入試を基本とし、推薦（公募、指定校、地域内）、編入学、社会人入学、留学生受入れ特別入試など多彩な方法を設定

施設設備

- 設置場所：現行農林大学校敷地内（磐田市）
- 校舎設備：設置基準に従い教育課程の実現に必要な施設を整備する

開学時期：平成32年4月目標

2 年制 短期大学部 生産科学科（仮称）
（収容定員 200 名、1 学年 100 名程度）

教育目標

- 豊かな生産知識と技術を持ち、生産現場のスペシャリストとして即戦力となる人材を養成する
- 生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識や技術と、その応用力を持った人材を養成する

学部・学科の特色

- 生産現場における経験・実践を重視した教育の実施
- 生産技術の高度化に対応した農林業教育の実施
- 農山村地域の文化や歴史などについて深く理解し、農林業者としての心がまえや職業観を養う
- コミュニケーション力や、外国語能力の涵養

基礎科目

- 栽培技術習得などに必要な知識を習得させ、教養を涵養し職業観を形成するため、一般教養（コミュニケーション論、文化、歴史、景観、環境保全等）、専門基礎（化学、生物等）を学ぶ

職業専門科目

- 本県の主要農林産物について、作目別に、農林業現場で必要な生産知識・技術を身に付けるとともに、食品加工や生産工程管理手法、などの応用分野について、豊富な実習を取り入れた科目を設ける
- 作目別分野…園芸（野菜・花き）、茶業、果樹、畜産、林業

総合科目

- 外部専門家による実践的講義、生産や販売の現場における実習を重視した生産現場の改善に関する卒業研究により、即戦力となる実践的な生産能力を身に付ける

静岡県専門職大学(農林業) 基本構想

2018年(平成30年)2月
静岡県

目 次

- 1 専門職大学の設置理由
 - (1) 本県農林業の現状と人材面における課題
 - (2) 本県農林大学校の現状
 - (3) 専門職大学を設置する意義
- 2 専門職大学の概要
 - (1) 大学の基本的な理念
 - (2) 大学の名称
 - (3) 学部学科の構成と入学定員
- 3 教育研究体制
 - (1) 4年制学部・学科(仮)
 - (2) 2年制短期大学部・学科(仮)
 - (3) 教員組織
 - (4) 入学者の選抜方法
 - (5) 施設整備等
- 4 地域・国際貢献及び大学連携
 - (1) 地域との連携や貢献
 - (2) 国際貢献
 - (3) 他大学との連携・協同
- 5 開学の時期
- 6 大学設置運営主体

1 専門職大学の設置理由

(1) 本県農林業の現状と人材面における課題

静岡県は多様な風土と温暖な気候に恵まれ、多彩で品質の高い農林産物が生産されている。近年、農林業においては、情報通信技術の活用による生産性向上、更には6次産業化による高付加価値化や、海外を含めた新規マーケットの開拓による販売力の強化などにより、成長産業として、また地域活性化につながる産業として、注目を集めている。

このように農林業を取り巻く社会情勢が大きく変化する中、経営構造も変化してきており、従来の家族による小規模経営体を主とする構造から、農林業法人などの組織的で大規模な経営体を主とする構造へ変化している。

組織的な経営体では、規模拡大や経営の多角化に伴い、経営管理や加工・流通・販売などの専門的知識や能力、生産性を高める先端技術への対応能力を持つ人材の必要性が高まっている。

(2) 本県農林大学校の現状

現在、国内42の道府県に、農林業経営者の養成における中核的な教育機関として農業大学校や林業大学校が設置されている。本県の農林大学校は、明治33年に農事見習生の教育を開始して以来、一貫して農林業後継者の育成、農林業指導者の養成を柱に、その役割を果たしてきた。平成11年には現在の農林大学校の体制に再編され、今年で創立117周年を迎えた。

この間、県内唯一の現場農林業者の養成機関として、幅広い知識と専門的な技術の習得、経営能力を高める実践的な教育を提供するという基本理念は変わることなく受け継がれ、卒業生は約9,000人に上る。卒業生は県内各地で中核的な農林業者として、本県農林業振興はもとより、地域の活性化等に幅広く活躍している。

現在も、「耕土耕心」の校訓の下、担い手の養成に向け、基礎的な生産技術や知識を習得する2年制の「養成部」と、更に2年間で経営管理やマーケティングの能力の上積みを目指す「研究部」を置いており、卒業生の8割以上が県内の農林業現場に就業、若しくは農林業関連の企業に就職している。

農林業現場で即戦力となる人材の養成を目標に、カリキュラムの見直しや外部講師の招聘など、様々な改革に取り組んできているが、消費者ニーズの多様化、国際化や情報化の進展など、農林業現場が直面してする大きな変化に十分に対応できていない。

【部の構成及び定員数】

(単位：人)

部	学年定員	1 学年学生数	2 学年学生数	計
養成部	100	92	83	175
研究部	20	4	7	11
計	120	96	90	186

2017 年（平成 29 年）4 月 1 日現在

(3) 専門職大学を設置する意義

将来の農林業現場を支える人材の養成

個々の農林業経営体の規模が拡大し、農林業に応用可能な技術革新が進展してきたことから、農林業現場では基礎的な生産能力に加えて、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、健康を志向した品質の向上やコストの低減など生産性を高める先端技術への対応能力を持ち、経営改革を主導できる人材が求められている。

そこで、生産技術の習得に向けた教育に加え、経営能力や管理能力、先端技術の理解力など、農林業現場で必要となる能力を高める実践的な教育を効果的に行うため、県内唯一の現場農林業者の養成機関である農林大学校を専門職大学に移行し、将来の農林業現場を支える専門職業人を養成する。

農山村の景観・環境・文化を育み支える人材の養成

景観の形成や自然環境の保全、水源の涵養など、農山村の多面的機能が注目される一方で、農山村地域では近年、高齢化や人口減少に伴い活力が低下していることから、農林業者が経営を行う上で、自然と共生しながら農山村の景観や環境を保全していくとともに、地域の文化や伝統を守り育み、地域社会を支えていくことが求められている。

国内外からの人材の受入れ

全国初の農林業分野の専門職大学として、県内の子弟のみならず、年齢や国籍、性別を問わず農林業を志す有為な人材に対し、質の高い実践的な高等教育を提供することにより、本県農林業の発展とともに、国際社会に貢献する人材を数多く養成する。

地域の活性化に寄与

多様な人々が大学に集い、交流することで、近年人口の流出が続く本県において、地域振興や賑いの創出が期待される。さらに、他地域

出身者が卒業後に定住する可能性や、対外的な「静岡県」の宣伝効果などにより、地域の活性化にも寄与することができる。

2 専門職大学の概要

(1) 大学の基本的な理念

新たに設置する専門職大学では、次のような観点から、農林業及び地域社会の発展に貢献することを目指す。

農林業経営に革新を起こす人材の養成

ア 農林業現場で必須となる生産に関する基礎から応用までの知識・技術を持ち、生産のスペシャリストとして、生産現場の中心となる人材を養成する。

イ 基礎的な生産能力に加え、農林業経営体の経営革新を推進する加工・流通・販売の知識や経営管理能力、先端技術への対応能力を有する人材を養成する。

地域社会における将来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化や伝統を守り育てることができる農林業者を養成する。

世界に開かれた大学として、農林業の人材養成を通じて産業の発展や社会の活性化に寄与する教育研究拠点を形成する。

これまで農林大学校では、校訓である「耕土耕心」、すなわち「大地を耕すことは自らの心を耕すことである」という理念の下、本県農林業の発展に貢献する、現場で活躍する農林業者を数多く輩出してきた。

専門職大学への移行に当たり、引き続きこの理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、将来の経営環境の変化に対応し、先端技術などを活用して経営革新を推し進め、更には農山村の美しい景観や環境、文化の継承者として、地域社会を中心となって支えていく人材を養成する。

(2) 大学の名称

(1)の基本的な理念に示した農林業者の養成に向けた教育内容を簡潔、的確に表現できる名称を検討し、設置申請までに決定する。

(3) 学部学科の構成と入学定員

学部・学科は、生産技術を基礎として農林業経営やマーケティングの知識・技術を習得する専門職大学1学部1学科(4年制)と、現在の農林大学校養成部の教育内容を活かし、生産の基礎から応用までの知識・技術を習得する専門職短期大学1学科(2年制)とする。

入学定員は現在の農林大学校の定員や卒業生の進路における人材需要を考慮するとともに、効率的な大学運営を行うため、以下のとおりとする。

学校種	学部	学科	入学定員	収容定員
専門職 大学	4年制学部(仮)	4年制学科(仮)	25人程度	100人程度
	短期大学部(仮)	2年制学科(仮)	100人程度	200人程度
			125人程度	300人程度

注) 学部学科の名称は適切な名称を引き続き検討

ただし、専門職大学で新たに設けられた前期後期の課程区分については、効率的な大学運営に資する制度として活用可能性があるか引き続き検討する。

3 教育研究体制

(1) 4年制学部・学科(仮)

教育目標

農林業経営体の規模の拡大に伴い、現場では生産能力に加え、経営管理能力、生産性を高める先端技術への対応力など、経営体の運営にかかわる能力が求められている。

県が農林業法人に実施したアンケート調査の結果からも、生産現場の監督者や現場作業者に次いで、経営管理や営業などの経営体運営能力を持つ人材を求める法人が多く、今後の農林業の発展に向けてこうした能力を持つ人材の養成が必要不可欠である。

さらに、農林業者には経営を行うだけでなく、人と自然が共生した美しい景観や自然環境を保全し、地域の文化や伝統を継承し、農山村地域を支えていくことが求められている。

こうした観点から、次の項目を基本的な教育目標とする。

生産能力に加え、先端技術への対応力と高度な経営管理能力を養い、「農林業経営体の経営を継ぐ」「農林業経営体の中核を担う」「自ら

新しい経営体を立ち上げる」など、それぞれの立場で自らの夢を実現し、農林業分野で活躍できる人材を養成する。

農林業の実践的な技術や知識と、生産物の価値を高める創造力を養い、農林業経営の現場で生まれる新しい課題に柔軟に対応できる人材を養成する。

農山村の景観形成の礎となる農業農村工学の実践的知識を養い、景観・環境や地域の文化、伝統を守って、自然と共生していくことのできる人材を養成する。

幅広い教養とコミュニケーション能力を養い、経営体や地域のリーダーとなりうる、豊かな人間性を備えた人材を養成する。

学部の特色

全国初の農林業分野の専門職大学としての特色をより鮮明にするため、農林業を生産だけでなく幅広い視野でとらえた教育を行うとともに、農林業経営体との連携を図る中で現場ニーズを的確にとらえた課題解決型の教育を行い、経営の現場が抱える課題に対応できる実践力を養う。

ア 農林業経営体等での体験・実践を重視した教育の実施

農林業経営体をはじめとする農林業界と密接に連携した教育を実施することにより、経営現場における豊富な体験を得るとともに、その体験に基づく確かな実践力を養う。

イ AOI-PARC 等との連携による、先端技術の知識習得

農林業の先端技術の研究拠点である AOI-PARC (Agri Open Innovation Practical and Applied Research Center : アグリオープンイノベーションの拠点) や、静岡県新産業集積クラスター (ファルマバレー、フーズ・サイエンスヒルズ、フォトンバレー) 等と連携した教育を実施することにより、ICT や AI (Agri-InfoScience : 農業情報科学) などの農林業現場で導入されている先端技術への理解を深める。

ウ 消費者動向を踏まえた農林業教育の実施

生産知識や技術を基礎として、加工・流通・販売などの6次産業化、食の安心安全、農林産物の機能性など、消費者の動向を踏まえたフードシステムの視点で農林業をとらえた教育を実施する。

エ 広い視野で農林業をとらえることができる資質・能力の涵養

農業農村工学の実践的知識の習得を通じた景観や環境などの農山村の持つ多面的機能の理解や、農山村地域の文化や歴史についての理解を促すことで、広い視野で農林業をとらえることができる資質・能力を養う。

オ コミュニケーション力や外国語能力の涵養

多様性を尊重しながら様々な人々と関係を築くことができるコミュニケーション力や、英語等外国語能力を養う。

カ 編入学制度の実施

より深い専門的な知識や技術の習得を希望する他大学・県外農林大学校卒業者や、新たに農林業を志す社会人などを受け入れるため、編入学制度を設ける。

教育課程

農林業経営者には、刻一刻と変化する時代に対応して経営を革新できる経営能力や、広く豊かな教養に基づいた柔軟な対応力が求められている。そのため、理論中心の科目履修や画一的な教育ではなく、より深く農林業を体験させる、経験と実践を重視した「実学」が必要である。

ディプロマポリシー（学位授与方針）やカリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）については、今後策定する基本計画において早急に検討する。カリキュラムの編成においては、農林業という職業に対する深い理解力を培うための基礎となる豊かな教養を習得する教育や演習・実習などを積極的に行う。更に実践的な対応力を養う専門教育を実施するため、設置基準における基礎科目と専門科目の教育目標を明確にした構成として、4年間での効率的な履修に配慮する。

なお、基本構想策定後に検討するカリキュラムポリシーを踏まえ、適切な教育課程を編成する予定である。

ア 基礎科目

農林業経営者に必要となる豊かな人間性や幅広い教養、専門科目履修に必要な知識を習得させ、確たる職業観の形成につなげるため、講義科目や導入科目として一般教養や、自然科学及び社会科学基礎、農業農村工学基礎、農山村の多面的機能について学ぶ。

農山村地域を取り巻く文化や歴史等への理解を深めるとともに、地域社会や他者との関わり方を学ぶことで、農林業を中心として多元的に物事を考えることができる人材を養う。

自然やものの成り立ちと理論を習得し、農林業生産を学ぶための基礎知識を身に付ける。

社会の様々な制度や、経済状況の理解に加え、経営理論を習得し、農林業経営を専門的に学ぶための基礎的な知識を身に付ける。

農林業生産と農山村地域の維持発展に必要不可欠な農業農村工学について、基礎知識を習得する。

農山村地域の持つ多面的機能(癒しや生物多様性、景観形成など)について、基礎知識を習得する。

イ 職業専門科目

農林産物の生産に加え、加工・流通・販売やマーケティング手法を含めた、農林業経営を実践するための高度な専門知識を教育研究するために、豊富な実習を取り入れ、生産技術と経営管理について学ぶ。

生産の基礎理論・技術を身に付けた上で、先端的・先進的な技術を学び、生産性・収益性の向上に資する生産技術力を習得する。

国内外の消費者に、安心安全な生産物を提供するための、国際基準の生産工程管理手法を習得する。

加工・流通・販売において、生産物を高付加価値化できる知識や手法を習得する。

組織マネジメントや、財務や労務、法律など、経営体の管理運営に必須となる知識を習得する。

ウ 展開科目

教育目的に応じて、職業専門科目で学修した内容に広がりを持たせる科目を置く。

エ 総合科目

農林業経営体経営者など外部専門家による実践的講義や、県の試験研究機関など関係機関と連携した教育、また、フードシステムの視点での生産から販売までの現場経験や、農山村で自然と共生し経営を実践する農林業者の下での経営研修など課題発見・解決型のプロジェクト実習を充実し、習得した知識・技術を現場で活用できる実践力や判断力を養う。

教育課程連絡協議会

農林業界及び地域社会のニーズを反映した教育課程を編成・実施するため、県内農林業者や普及機関、研究所関係者などを構成員とした教育課程連絡協議会を設け、その意見を踏まえた教育課程の編成・実施・評価を行う。

(2) 2年制短期大学部・学科(仮)

教育目標

農林業の本質は生命を育むことであり、農林産物の生産知識や技術は、農林業者にとって必要不可欠なものである。農林大学校養成部では一貫して現場に必要な生産知識・技術を持つ人材を養成してきており、農林業法人等からのニーズも高く、本県農林業人材養成において大きな役割を果たしている。

一方、近年現場でも GAP(農業生産工程管理)の取組や ICTの活用など生産技術の高度化への対応や、加工等により付加価値を向上させる技術や知識が求められている。こうした観点から、次の項目を基本的な教育目標とする。

確かな生産知識と技術を持ち、生産現場のスペシャリストとして即戦力となる人材を養成する。

生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識や技術と、その応用力を持った人材を養成する。

学科の特色

実習を中心とした教育を実施することにより、生産技術や知識を基礎から応用まで深く掘り下げ、生産の現場が抱える課題に対応できる実践力・応用力を養うこととする。

ア 農林業の生産現場における経験・実践を重視した教育の実施

圃場における生産実習や、農林業経営体における企業実習、県の各研究機関での先端技術習得など、農林業の現場における豊富な経験と、その経験に基づく確かな実践力を身に付けることで、現場における課題に対応する力を養う。

イ 生産技術の高度化に対応した農林業教育の実施

GAPの取組や情報通信技術の活用など、生産現場に導入が必要とされている知識について学ぶとともに、農林業界や関係機関との情報交換により最新の現場事情を教育課程に反映させることで、現場の最前線で活躍できる資質・能力を養う。

ウ 農林業者としての職業観の涵養

農山村地域の文化や歴史、景観や環境などについて深く理解し、農林業者としての心構えや職業観を養う。

エ コミュニケーション力や外国語能力の涵養

多様性を尊重しながら様々な人々と関係を築くことができるコミュニケーション力や、英語等外国語能力を養う。

教育課程

農林業現場従事者には、農林産物の生産についての深い技術・知識と実践力に加え、日々変化する農林業現場への柔軟な対応力が求められている。そのため、理論中心の科目履修や画一的な教育ではなく、より深く農林業を体験させる、経験と実践を重視した「実学」が必要である。

ディプロマポリシー（学位授与方針）やカリキュラムポリシー（教

育課程の編成方針)については、今後策定する基本計画において早急に検討するが、カリキュラムの編成においては、農林産物生産知識や技術を習得する教育や演習・実習などを積極的に行う。更に柔軟な対応力を養う専門教育を実施するため、設置基準における基礎科目と専門科目の教育目標を明確にした構成として、2年間での効率的な履修に配慮する。

なお、基本構想策定後に検討していくカリキュラムポリシーを踏まえ、適切な教育課程を編成する予定である。

ア 基礎科目

専門職短期大学の教育にふさわしく、現場農林業従事者に必要となる栽培技術習得などに必要な知識を習得させるとともに、教養を涵養し職業観を形成するため、講義科目や導入科目として一般教養や専門基礎を学ぶ。

農林業を取り巻く文化や歴史、景観や環境に対する理解を深めるとともに、農林業者として地域社会や他産業との関わり方を学ぶことで、広い視点を持ち、農林業の担い手として確かな職業観を持った人材を養う。

自然やものの成り立ちと理論を習得し、農林業生産を学ぶための基礎的な知識を身に付ける。

イ 職業専門科目

静岡県の主要農林産物について、作目別に農林業生産現場に必要な知識・技術を身に付けるとともに、食品加工や生産工程管理手法などの応用分野について、豊富な実習を取り入れた科目を設け、確かな生産能力を身に付ける。

作目別分野...園芸(野菜・花き)、茶業、果樹、畜産、林業

ウ 展開科目

教育目的に応じて、職業専門科目で学習した内容に広がりを持たせる科目を置く。

エ 総合科目

農林業経営体経営者など外部専門家による実践的講義や、県の試験研究機関など関係機関と連携した教育、また、生産や販売の現場における実習を重視した生産現場の改善に関する卒業研究などにより、即戦力となる実践的な生産能力を身に付ける。

教育課程連絡協議会

農林業界及び地域社会のニーズを反映した教育課程を編成・実施するため、県内農林業者や農林業団体、高校関係者、地元市町、県関係者などを構成員とした教育課程連絡協議会を設け、その意見を踏まえた教育課程の編成・実施・評価を行う。

(3) 教員組織

教員組織は時代の変化や教育研究の進展等に対応できるよう柔軟な体制とする必要がある。原則として、主要科目等は専任教員(教授・准教授等)が担当するものとし、必要に応じ非常勤講師等で対応する。

教員の確保に際しては、教授・准教授・講師の人数及び年齢のバランスを考慮し十分な教育研究ができるよう、農林業経営体の経営者や本県職員を含め、優れた研究業績や豊富な実務経験を有する教員を配置する。

採用に当たっては活動実績のある教員を積極的に招聘、あるいは国内外で活躍する識者を非常勤講師として確保する。

国際的視野を広げるため、外国人教員の確保に努める。

より幅広い教育内容を提供するため、実務家教員として農林業経営者や行政機関の専門家の活用や、客員教授として他大学研究者の活用に取り組む。

(4) 入学者の選抜方法

入学者の選抜については、一般入試を基本とし、推薦(公募、指定校、地域内)、編入学、社会人入学、留学生受入れ特別入試制度など多彩な方法を設けるよう努める。

(5) 施設整備等

設置場所

大学の設置場所は、現在農林大学校の施設や圃場を有効活用するとともに、教育研究において隣接する研究所との連携を図るため、現在地のままとする。

施設設備

校舎・設備については設置基準に基づく施設・設備の整備に加え、教育課程を実施するのに必要な施設・設備を整備する。

学生寮

農林業を営む上で必要なコミュニケーション力や協調性を涵養するため、学生寮のあり方について検討していく。

4 地域・国際貢献及び大学連携

今後の少子化社会や社会人教育ニーズの高まりに対応し、年齢・国籍・性別に関係なく生涯学習の多様な機会を提供するとともに、大学の教育研究機能を活用し、地域や国際社会へ幅広く貢献できる大学を目指す。

(1) 地域との連携や貢献

大学の教育研究機能を活用し、産学官連携の下、行政施策や地域課題の研究機関として広く地域社会の課題解決に貢献することを目指す。

静岡県農林業の更なる発展に資するため、農林業人材養成の拠点として大学の教育研究機能を開放し、新たな農林業の人材養成環境づくりを支援する。

情報通信技術の活用などにより、生涯学習機会や大学情報の提供に努める。

地域社会の生活・文化の向上に寄与するため、市民生活や文化活動に積極的な支援を行い、地域に根ざした貢献を図る。

大学施設を積極的に開放し、地域に開かれた大学として、地域社会と様々な分野でも交流を促進する。

体系的、継続的なリカレント教育や公開講座などの生涯学習の多様な機会を提供し大学の教育機能を広く開放する。

(2) 国際貢献

外国人留学生の受入れ態勢を整備し、海外の大学と協定を結ぶことなどにより国際交流の促進について取り組む。

国籍を問わず、農林業を志す人材を広く受け入れ、質の高い実践的教育を提供することで、静岡で農林業を学んだ学生が国内・国外で活躍し、世界の農林業の発展に貢献することを目指す。

(3) 他大学との連携・協働

地域や分野において大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育の質の保証と向上を目指すことが重要であることから、既存の他大学との交流の推進を検討する。具体的には、教育研究の連携、協働教育プログラム、単位互換協定、学生の交流等を検討していく。

5 開学の時期

平成32年4月開学を目標とし、教育研究体制や運営組織、施設整備などの具体化を図りながら文部科学省への申請の準備を進める。

なお、静岡県立農林大学校については専門職大学開学年度から新たな学生の募集を停止し、全学生の卒業をもって廃止する。

6 大学設置運営主体

大学運営に当たっては、県直営のほかに公立大学法人制度での運営が考えられるが、農林業の担い手養成は農林業振興政策の主要な柱の一つであり、大学化後も、県として責任を持って農林業人材の育成を行い、農林業経営体の発展や農山村地域の振興を図っていく必要があることから、現段階では県の直営とする。